

■■■■ 福祉社会学会 ニュースレター 第69号 ■■■■
Japan Welfare Sociology Association Newsletter No.69

<http://jws-assoc.jp/>
E-mail: maf-ws@mynavi.jp

***** INDEX *****

- 副田義也先生を偲んで
- 福祉社会学会・第20回大会 テーマセッションのテーマとコーディネーターの募集について
(2月28日締切)
- 福祉社会学会・第20回大会 自由報告の募集について (4月30日申込締切予定)
- 現在非会員で大会報告をお考えの方に
- 福祉社会学会・第20回大会の抄録集のホームページ掲載について
- 理事会報告
- 事務局からのお知らせとお願い

■副田義也先生を偲んで

藤村正之(上智大学)

2003年の福祉社会学会の創設にかかわり、初代会長として2期お務めいただき、本学会顧問であられた副田義也先生が、2021年10月8日多臓器不全のため、ご逝去された。享年86歳であった。副田先生の筑波大学勤務時代の大学院生であり、その後、共同研究の一員などさせていただいたものとして、先生を小稿で偲ばせていただくこととする。

福祉にとどまらず、教育や文化、歴史のテーマも含め、多方面に多くの社会学の著作を残された先生であり、『副田義也社会学作品集(全12巻)』(東信堂)も現在刊行中のところである。福祉社会学の領域としては、日本で初めて『福祉社会学』(川島書店)の書名のついた著作を松原治郎先生と副田先生の共編で1966年に出版されている。現在の福祉社会学研究の感覚でいえば、福祉の諸領域・諸側面の研究というより、国民皆保険・皆年金や福祉六法の体制が成立した前後、高度成長期への反省の機運が出始め、福祉コンシヤスに向けた問題提起の書であったということになるだろうか、副田先生ご自身は同書に「生活の構造」という論文を書き、その後の共編著『生活構造の理論』(有斐閣)へとつながる前段のお仕事となっている。その後も、老年研究、青少年研究、ひとり親家庭研究ならびに福祉制度や福祉行政の研究、社会問題論などに取り組みつつ、60代で『生活保護制度の社会史』(東京大学出版会)、70代で『福祉社会学宣言』『福祉社会学の挑戦』(共に岩波書店)などを刊行され、長く精力的にお仕事をつづけられていた。

そこでの特徴は、視点を狭く福祉に限定することなく、その福祉の領域が他の領域・他の視点とどう交差していくかという広がりの中で研究をなさっていたといえるかもしれない。それは、そこに生きる人々の生きざまや、その交錯がもたらす葛藤や矛盾を描くことに関心があり、後半生、社会的行為論という言い方で、やや自由に、人々とそれらの行為が織りなす社会のあやをドラマとして描くことに研究の焦点をあてていったようにも思う。

会長としては、福祉社会学会創設時点で70歳直前であられたせいもあってか、若い人たちに任せるという運営スタイルであったかと思う。『福祉社会学研究』第1号に、立教大学でおこなわれた初回学会大会の記念講演の再

録「福祉社会学の課題と方法」が掲載されており、末尾は次のようにまとめられている。「この理事メンバーの平均年齢は関連学会のそれのなかではきわめて若く、新生の福祉社会学会にまことにふさわしい。ただし、私のみはすでに老境に入り、研究者生命の持続期間はあと数年を残すのみである。そのあいだ、皆さまとの伴走を許されることを乞うて、この名誉の記念講演を結ぶことにする。」その後、10 数年以上にわたり、福祉社会学会を見守っていただいていたことになる。

日本社会事業大学、東京女子大学、筑波大学、金城学院大学と 75 歳まで大学に勤務され、20 代後半から 80 代半ばまで、半世紀を超える期間、息長く執筆活動をされてきており、その意味では、副田先生は「書くことが生きることである」という人生を過ごされたと思う。たしなむというよりはあびるようにお酒を召し上がる先生であつたが、「熱燗は心が酔えるんだ」として、ぬるめの燗酒を好んでおられた。痛飲された翌日の午前中の大学院のゼミで、早起きの先生は「今朝は原稿用紙〇枚書いてきた」と話され、当時の院生で原稿のすすまない私たちをしょげさせつつ、勇気づけていた。その手書きの原稿用紙のコピーがそのままその日の授業になることもあったことをなつかしく思い出す。

ご本人にそういうおつもりはなく、「自分の仕事をするだけ」ということであつたろうが、福祉社会学の研究において私たちが学ぶべき、さまざまな範を残された先生であつたと思う。福祉社会学会もまもなく設立 20 年を迎えるまで成長してきた。副田先生のご逝去に、改めて心より哀悼の意を表させていただくこととしたい。

■福祉社会学会・第 20 回大会 テーマセッションのテーマとコーディネーターの募集について

福祉社会学会第 20 回大会は 2022 年 7 月 2 日（土）・3 日（日）に同志社大学新町キャンパスにて開催予定です。なお、今後の感染状況の変化によってはオンラインでの開催に切り替える可能性もありますので、あらかじめご留意ください。開催方法の最終的な決定は、3 月中旬ごろに改めて告知させていただきます。

○大会のテーマセッションのテーマの募集について

テーマセッションはコーディネーターを中心に報告部会を企画していただくもので、コーディネーターには、報告者・報告順の決定、および当日の司会進行を行なっていただきます。テーマセッションは研究委員会に企画書を提出していただき、その採択・承認をもって成立します。採択の結果については締切後 1 週間以内にお知らせいたします。

テーマセッションは以下の 3 種類です。

- (1) 会員から報告者を公募する公募型テーマセッション
- (2) 報告者を公募しない、会員による自主企画セッション
- (3) 非会員の報告者を含めた拡大セッション

※上記以外に、(4)研究委員会企画テーマセッションが組まれる可能性があります。

(1)の報告者公募型テーマセッションは、企画が採択された場合には 3 月中旬にニューズレターで会員から報告者を公募します。コーディネーターは、応募者の中から報告者を選定し、部会編成を行います。部会が成立しなかった場合や報告が採択されなかった場合は、大会の自由報告部会で報告することができます。

(2)は自由報告の一部会の扱いになります。自由報告申込時に企画書（公募型、拡大セッションの企画書に準じたもの）を一緒にご提出ください。

(3)は非会員を報告者に含めたセッションです。コーディネーターは会員である必要があり、その招聘に伴う費用はコーディネーターが責任をもつものとします。拡大セッションは報告者の公募を含めることもでき、その場合には公募型と同様な募集を行います。

公募型テーマセッション、拡大セッションの企画書について

- ・締切：2022年2月28日（月）
- ・申し込み先アドレス：welfaresociology10research★googlegroups.com（←★を@に変えてください）
- ・企画書の内容：下記の事項および「テーマセッション・コーディネーター申込み」であることを明記した企画書をお送りください。
- ・テーマセッションの種類／所属／連絡先（住所・電話番号・電子メールアドレス）
- ・テーマ（そのまま部会名となります）
- ・拡大セッションの場合、非会員の報告者の氏名・経歴・研究歴などの情報
- ・部会趣旨（800字程度。承認された場合は、ニューズレターにそのまま掲載されます。）

テーマセッションに申し込みをされた方に対しては、受理通知を電子メールで返信します。申し込み後2日過ぎても返信がない場合は、研究委員会の平野寛弥までご連絡ください（h.hirano★mejiro.ac.jp←★を@に変えてください。）

■福祉社会学会・第20回大会 自由報告の募集について

本年7月2日（土）と3日（日）に開催予定の第20回大会の自由報告募集のお知らせです。

自由報告の申込と予稿集原稿の提出締切は、いずれも4月30日（土）の予定です。申込書と予稿集原稿の提出の締切が同一日に設定されていますので、くれぐれもご注意ください。なお、いずれも電子メールのみの受け付けとなりますので、あらかじめご了解ください。

自由報告の申し込みを検討される場合は、学会ニューズレターおよび本学会のWEBページに掲載される大会WEBページにご注意いただき、締切などのお見落としのないようお願いいたします。

学会WEBページのURLは次の通りです。<http://jws-assoc.jp/>

■現在非会員で大会報告をお考えの方に

次回の本学会への入会承認は7月の大会時に開催予定の理事会となりますが、現在非会員で大会報告申込をお考えの方も、以下の手続によってご報告（自由報告、テーマセッション報告）いただくことが可能です（共同報告で現在非会員の方が含まれる場合も同様です）。

- (1) 報告は会員であることが条件となりますので、大会報告申込締切時点の4月15日（金）必着で福祉社会学会事務局（〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学産業社会学部 鎮目真人研究室）あてに入会申込書を御郵送下さい。その際、「大会報告申込希望」であることを明記して下さい。
- (2) 同時に、大会報告申込も、申込要領に従って4月30日（土）までに研究委員会あてに申し込んで下さい。その際、「事務局に入会申込書送付済」と明記して下さい。
- (3) 庶務理事と理事会幹事会で入会申込書を確認したうえで、仮入会の形とさせていただきます。この時点で追加の確認が必要になった場合は、庶務理事より連絡させていただきます。
- (4) 同じく4月30日（土）提出締切の予稿集原稿を御用意いただき、研究委員会あてに電子メールでお送り下さい。

9月に締切予定の学会誌『福祉社会学研究』への投稿には、7月大会時の理事会での入会承認が必要となりますので、現在非会員で投稿を御希望の方はお間違いのないようお願いいたします。

■福祉社会学会・第20回大会の抄録集のホームページ掲載について

第20回大会では、予稿集をHPにて掲載いたします。予稿集が出来上がりましたら、学会員にはメールでパスワードをお知らせします（パスワードでの情報管理）。テーマセッションと自由報告にご応募なされる場合は、予稿集がHPにアップされることをご了解いただきますようお願いいたします。冊子は、配布いたしません。

■理事会報告

●福祉社会学会 2021 年度 第2回理事会の議事録（一部省略）

2021 年 8 月 31 日（火）、13 時～14 時 45 分、オンライン開催

出席者：井口高志、稲葉昭英、亀山俊朗、鎮目真人、須田木綿子、高野和良、寺田貴美代、畑本裕介、平岡公一、平野寛弥、森川美絵、米澤旦

●報告事項・審議事項

開催に先立ち、平岡会長から挨拶がなされた。

1. 会員へのメール不着問題に対する報告と審議

- ・メールの不着に関して、会員からの不利益情報は寄せられなかった旨、事務局より報告がなされた。
- ・メールの不着の原因に関して、会員に対して前庶務理事より会員に対して報告する旨を確認した。
- ・再発防止策として、会員に対するメール送信を学会事務局(毎日学術フォーラム)に委託する旨を審議し、了承された。

2. 2020 年度会計に関する報告と審議

- ・2020 年度の会計報告が遅れている状況について確認した。
- ・第10期に会計処理を引き継ぐことを検討した。

3. 20 周年事業に関する報告と審議

- ・23 年度大会でシンポジウムを開催し、それを学会誌で特集として掲載すること、ハンドブックの改訂版を作成することなどを検討した。
- ・記念事業委員会を組織して、上記について検討することが了承された。記念事業委員会の委員の構成は、全体統括者として高野副会長、理事会から亀山理事、寺田理事、そして、各委員会から委員を選出することを決定した。

最後に、平岡会長より閉会の挨拶がなされた。

●福祉社会学会 2021 年度 第3回理事会の議事録（一部省略）

2021 年 12 月 18 日（土）、14 時～17 時、オンライン開催

出席者：井口高志、稲葉昭英、堅田香緒里、亀山俊朗、鎮目真人、白波瀬佐和子、須田木綿子、高野和良、寺田貴美代、中田知生、畑本裕介、平岡公一、平野寛弥、森川美絵、米澤旦

●報告事項・審議事項

開催に先立ち、平岡会長から挨拶がなされた。

1. 研究委員会関連の報告と審議事項

- ・次回大会の開催方法に関して、対面を原則とし、3月時点でオンラインに変更するかどうかについて決定する。ただし、発表募集の際には、オンライン開催になった場合でも発表するかどうかの意向を確認することとする。
 - ・テーマセッションの有無、参加費の徴収の有無、要旨集・予稿集発行の有無について、研究委員会で検討する。ただし、要旨集・予稿集は紙媒体のものは基本的に発行せず、様々な方法でアクセス可能な状態(例えば、読み上げ可能な状態)のものを提供することを検討する。
 - ・会員である大会シンポジストへの謝金・交通費の支払いについて研究委員会で審議する。
2. 編集委員会関連の報告と審議事項
- ・学会誌の研究倫理審査受理・倫理指針に関して、編集委員会として、投稿を受理する際の手続きを検討する。
 - ・学会誌・第20号企画として、特集IIは第20回大会のシンポジウムと関連した内容を掲載し、特集IIIは「ストック」の福祉社会学をテーマとした論文を掲載する。
3. 20周年記念事業委員会関連の報告と審議事項
- ・20周年記念事業委員会における研究委員会および編集委員会からの選出委員は、それぞれ、富江直子会員と米澤旦会員に委任する。
 - ・20周年事業として、2023年大会で20周年記念シンポジウムを開催し、その内容を2024年発行の学会誌に掲載する。
 - ・『福祉社会学ハンドブック』と一体として活用できる『文献ガイド』の作成を23年中の刊行を目指して行う。
4. 社会学系コンソーシアム関連の報告事項
- ・2022年1月29日に開催予定の日本学術会議による第14回シンポジウムについて報告。
5. 社会政策関連学会協議会関連の報告事項
- ・2021年11月20日に開催されたシンポジウムについて報告。
6. 事務局からの報告事項と審議事項
- ・第19回大会報告について、阿部彩前研究委員長より、大会が問題なく開催された旨、事務局より報告。
 - ・第21回大会の候補校について、各大学における学外者の利用可能性などを視野に入れて、今後検討する。
 - ・20年度決算・21年度予算について、今年度中の出来るだけ早い段階で報告できるよう作業を進めることを確認した。
 - ・副田義也顧問のご逝去に関して、2021年11月12日に学会のWebページの訃報欄でお伝えしたこと、次年度に発行するニューズレターで追悼文を掲載する旨を報告。
- 最後に、平岡会長より閉会の挨拶がなされた。

■事務局からのお知らせとお願い

ご所属や住所、メールアドレスを変更された場合は、毎日学術フォーラム福祉社会学会係(maf-ws@mynavi.jp)までお知らせ下さい。

また、研究会情報は研究委員会：kaorikatada★hosei.ac.jp (←★を@に変えてください) までお寄せください。

【発行・編集】 福祉社会学会事務局